

# 新聞部門プレ大会開催 新聞専門部 本大会に向けて本格始動



制作  
長野県高等学校文化連盟  
新聞専門部

第7号



交流新聞を製作している参加校の生徒たち

は、なく学  
校を混ぜ  
て振り分  
けられた。  
それぞれの  
布施での  
取材を行  
つて、無事  
交流新聞  
は完成し  
たが、全  
ての班が  
締め切り  
時間を守

## 交流新聞制作

### 締め切り厳守が課題

今回も県総文祭恒例の交流新聞作りが行われ、県内6校の新聞部、新聞委員会  
の生徒が集まった。班は普段の仲間ではなく学  
校を混ぜて振り分けられた。それぞれの布施での  
取材を行って、無事交流新聞は完成したが、全  
ての班が締め切り時間を守

2018年8月7日〜11日に行われる2018信州総文祭新聞部門のプレ大会(第12回長野県高等学校新聞フェスティバル)が10月13(土)、14日(日)に長野市若里市民文化ホールで行われた。参加者は班ごとに別れ小布施で取材を行い、新聞を制作した。また、県高校新聞コンクールも開催され長野高校が最優秀賞を受賞した。

## 県高校新聞コンクール

### 最優秀賞に長野高校



最優秀賞を受賞した長野高校新聞部の高野篤郎さん

2018信州総文祭新聞部門プレ大会の1日目には、県高校新聞コンクールの審査結果が発

表され、長野高校が最優秀賞を受賞した。長野高校2年を代表した信濃毎日新聞社の宮坂博昭さんは「5W1Hを意識出来ていない新聞が多い」とし、「人にもっと注目して取材をしてほしい」と講評した。最優秀賞以外の表彰は次の通り。

- ▼最優秀賞 長野高校
- ▼優良賞 長野日大、上田
- ▼奨励賞 上田西、飯山、松本県ケ丘

(奈良本・石田)

## 小布施で地元の魅力を発見

今回の信州総文祭プレ大会では、来年の総文祭の下見を兼ねて小布施を取材した。現地では、桜井日精堂社長の桜井昌季さんの小布施についての話聞いた後、



多くの人で賑わった小布施の六斎市

班ごとに分かれて取材を行った。三班は、六斎市やカフェなどを訪れた人々に取材した。六斎市とは毎年恒例の美りの秋の収穫祭のこと。小布施町中心部で、果樹栽培が盛んな小布施の旬の果物の販売を中心として、農産物加工品の販売などを

行い、多くの人々で賑わっている。六斎市を訪れていた地元の小学生の男子は、小布施について「歴史があつて良い。街並みが他と違っていて和風だと感じる」と話した。地元家族連れは六斎市について、「おいしい食べ物がたくさんあり、地元のも

のが主の市があつて良い」、地元で自営業を営んでいる方は、「観光客は減っているように感じるが、季節関係なく来てくれ嬉しい。栗は他のところよりおいしい」とそれぞれ小布施の魅力を語った。観光で小布施を訪れていたイギリス人の男性は「小布施は祭や歴史的な建造物があり魅力的だ。リングはイギリスのものより甘くて美味しい」と話した。今回の取材には様々な方が応じてくれたが、それぞれが感じる小布施についての魅力をたくさん教えてくれた。

(奈良本)